



るうてる



2026年
7月
No.943

■発行所 ■
日本福音ルーテル教会事務局広報室
〒162-0842 東京都新宿区市谷砂土原町 1-1
電話 03-3260-8631

■ウェブサイト ■ <https://jelc.or.jp/>
■E-mail ■ jelc@jelc.or.jp

■発行人 ■ 竹田大地 koho@jelc.or.jp
■印刷人 ■ 精文堂印刷株式会社

■定価 ■ 1部 40円 (郵税を含む)
■振替口座 ■ 00190-7-71734

説教 「主が共に」

日本福音ルーテル大江教会牧師 中島和喜

「イエスは答えて言われた。『この神殿を壊してみよ。三日で建て直してみせる。』」
(ヨハネによる福音書2:19)



6歳の息子がよく歌を歌っています。教育テレビなどで聴く「みんなのうた」よりもよっぽど賛美歌の方がなじんでいるようで、お気に入りはずっと「きよしこの夜」です。冬でも夏でもいつもきよしこの夜を聞かせてくれます。ご丁寧に「教会讚美歌37番」と教えてくれるので、番号を覚えるのが苦手な私も「きよしこの夜」の番号だけは記憶に刷り込まれることとなりました。

最近はまだ歌うだけでなく替え歌も歌うようになりまして。ちゃんと意味を考えた上で替え歌を歌っていることに感心しつつ、時折ツッコミを入れたくなることもあります。ある時、「十字架の主イエスが心に満たされて、その愛に、その言葉に、心を癒やされる」という自分で考えた賛美歌を「ご機嫌に歌っていました。ご丁寧に前奏から口ずさむので割と気に入っているのです。う。ただ、普通に歌うのに飽きてしまったのか、はたまた2番以降が分からず適当に歌ったのかは分か

りませんが、この賛美歌の最初の「心」の部分を変えて、「十字架の主イエスが僕に満たされて」と「十字架の主イエスが父さんに満たされて」と歌い始め、随分と福音に満ちた替え歌だなあと感心させられました。しかし、歌っていたのがお風呂場だったから次第に「お風呂に満たされて」と少しばかり方向性が変わり始めたかと思えば、最後には「トイレに満たされて」となっていました。イエス様が「トイレ」に満たされるのはどうなんだと苦笑いしつつも、楽しそうだからいいかと何も言わず私にただぼんやりと湯船に漬かつて聞いていました。

しかし、ぼんやり湯船に漬かりながらふと「何で”トイレ”はダメだと考えたのだからか」と自分自身の考えに疑問を持ち始めました。「僕」や「お父さん」はたまた「お風呂」までは特に何も感じずに聞いていました。なぜ「トイレ」には苦笑いしたのだからか。別にイエス様に満たされるのはどこであつてもよいはず。にもか

わらず、私は心のどこかで神の居場所を限定してしまっていたのでしょうか。何となく汚いイメージがあるから「トイレ」はダメだと感じてしまっていたのです。結局は私も、新約聖書のユダヤ人たちが神の居場所を「神殿」に限定してしまつたように、神を「美しい場所」に閉じ込めたくなつてしまつていたのでしよう。

「イエスは答えて言われた。『この神殿を壊してみよ。三日で建て直してみせる。』」(ヨハネによる福音書2:19)。ユダヤ人たちが抱えていた、神殿を神の居場所とし、一方で神の居場所を神殿に限定してしまふ、いわゆる神殿崇拜をイエス様は破壊されました。どこであつても神が共におられるのだと語られたのです。そのことは分かつたつもりであつても、私たちはいつの間にかまた別の「神殿」を心に作り上げてしまっています。どこかで、美しい場所こそ、あるいは正しい姿こそが神にふさわしいと。

ここで大切なことは、その神殿をまた壊しにイエス様がやつて来てくださるといふことです。私が作り上げていた神殿は、息子の無邪気な替え歌によつて見事に壊されていきました。神は必要に応じて恵みをお与えになる方であることが示されたと同時に、やはり素直に生きていくということが信仰者の目指すところであり、そういう意味では子どもも生き方なのではないでしょうか。主が共におられる。どのような私たちであろうとも、それは変わりません。どこであつても、主はおられるのです。子どものように、ただ信頼していきましょう。

ちなみに、その歌がすっかり気に入った私はまた息子に歌つてもらおうと「もう一度歌つて」と日々お願いしているのですが、お願いされるとやりたくないくなるようで、一度と歌つてはくれなくなりました。おかげで今では私が一人寂しく口ずさむだけです。

「十字架の主イエスが心に満たされて、その愛が、その言葉が、心を癒やされる」と

申し訳ないだけのような気がして心もとないのに、あれ？私たちが意識してないところでたくさん関わつてくださっている方がおられる。その方がたくさん関わつても「ありがと」と少し言つてみたりするだけで偉くなった気分になつたりする。

あなたが誰かを思いやつたり、手伝つたり、関わろうとするときも私たちにたくさん関わつてくださる方も必ず一緒に連れて来て、必ず一緒に心を添えてくださる。他の人に手伝つていただくその手と一緒にいっしょにあなたと関わつてくださる方の手も添えられていくから。誰かが不便そうとき手伝うことも、自分が手伝つてもいいことも特別じゃありません。いつものように関わつてくださる方が一緒におられるから。



「マルタとマリアの家のキリスト」(1618年) ディエゴ・ベラスケス

「ヨハネによる福音書2:19」

「イエスは答えて言われた。『この神殿を壊してみよ。三日で建て直してみせる。』」

「神殿」を心に作り上げてしまひます。どこかで、美しい場所こそ、あるいは正しい姿こそが神にふさわしいと。

ここで大切なことは、その神殿をまた壊しにイエ

「逆のことをしようとする」と難しいときあるよね。」と言われて少しびつくりして考えさせられました。それはこういうことでした。他の人が不便そうにしているときに手伝うときは、気持ちが悪くだけ、その逆で自分が不便で他の人が気づいてそれを手伝つていただくのは苦手だという意味の「逆」という言葉でした。

そういえば昔いろいろなことを他の人に手伝つていただくようになっていきました。その度に「ありがと」と言うけれど申し訳ない感じがして、いっばいになつてしまひます。「他の人に手伝つていただくのは手伝う人も手伝われる人も恵みなのよ」と言われたことも思い出しました。

何が恵みなのだろうか？手伝つていただくのは



伊藤早奈
⑦⑥「一人じゃありません」

リレーコラム

「全国の教会・施設から」37



日本福音ルーテル 松本教会

中村紋子

(日本福音ルーテル 松本教会代表)

松本教会は北アルプスの麓、国玉松本城の近くにありま

教会の歴史はフィンランドミッジョン、ライティン宣教師の伝道、一九五九年借家で塩原久牧師が始められた集會にさかのぼります。一九六三年現在の地に土地を購入。新築の牧師館での礼拝が始められ、礼拝堂の完成は一九六六年の12月でした。ラジオのルーテルアワーを聞いて集まった人も多しと聞いています。一九九三年には広大な甲信地区の信徒が集まれる場所をと、多くの方の祈りとお支えにより甲信地区センターが完成しています。二〇二年には耐震への対応のため会堂を改修、教会の垣根を低くという皆の思いから正面には大きな窓が設けられ、いつでも外から礼拝堂が見られるようになっています。また教会員でもある山崎種之さんのス



松本教会外観

テンドグラスに囲ま

れ、礼拝中もとてもきれいな光が入ります。翌年にはワークキャンプが行われ、教会内外の青年たちの手でウッドデッキも作られました。

コロナ禍前には一日バザー、お昼を囲んで手仕事や学びを行う昼カフェ、夜には歌や食事を楽しむルターナイトなど教会内外の方が集う場がたくさんありました。現在は高齢化や担い手不足により行っていないですが、新たな会も生まれています。女性会が中心となり教会のお掃除やお話しを楽しむパーチエの会、ジャンルを越えて歌を楽しむルーテル歌の集い、アドベントバザー等です。いずれに

してもできる人ができる事をこつこつ行つて下さり、今の松本教会があるように思います。

長い間、長野、松本教会は兼牧体制で、通信による礼拝も行われていま

す。4月より諏訪教会が一緒となり3教会兼牧となりました。元々甲信地区で集まっていた信徒同士です。牧師に感謝し、集められ、つながれた者として祈りつつ共に歩んで参りたいと思います。お近くにお越しの際は、ぜひお立ち寄りください。

恵泉幼稚園

江口由実

(恵泉幼稚園園長)

「祝福に満たされたこころをむ幼稚園」

「おはようございます！」と元気に登園する子。あ

いさつをするのは恥ずかしくてしずかに登園する子。いちばんに保育室に

入りたくて大急ぎで走り抜けていく子。しばらく廊下でごろんと寝転んでから身支度を始める子。お母さんとお別れがとっても悲しくて涙が止まらない子。たくさん

の親子がいる玄関はちよつと緊張するため誰もいなくなつてからそつと入つてくる子…。恵泉幼稚園の毎朝の風景で

す。どれもありのままのその子の表現…その一人一人の思いや個性をうけとめることから一日が始まります。毎日の生活の中でも「子どもを信じて見守ること」「子どもが自分で気持ちを立て直すこ

とができるよう援助すること」「その子に合ったオーダーメイドの支援をすること」を大事にしています。

好きな遊びを見つけてじっくり遊び込むことのできる環境と時間が保障され、落ち着いた雰囲気の中で安心して過ごし、そこに集う誰もが(子どもも保護者も保育者も)かけがえのない存在として尊重される幼稚園

でありたいと思います。現在、地域の子育ての場としての役割を果たすべく毎週開いている「子育て支援おやこであそぼ」(園内・園庭開放)が周知

され始め、毎回10組〜15組の親子が来園されています。年齢や発達に合わせたおもちゃやあそびの提供・育児相談を行つています。また子育て世帯や社会のニーズとして2歳児の保育にも注力することが求められ、二〇二六年度より2歳児保育をはじめました。幼い子ども

たちが安全に過ごすことができるように、その発達にに応じた保育を行うことができるように環境を整え、学びを重ねているこころです。

恵泉幼稚園は今秋創立95年を迎えます。子どもたちを取り巻く環境や社会がめまぐるしく変化すること時代にあつて、幼稚園は変わつていかなければならないことと変えてはいけないことを

しっかりと見極めなければならぬことを感じる日々です。創立当初から変わらぬ行われてきた一人一人を大切にす

キリスト教保育を基として、神様から託されている子どもの存在そのものを受容し、育ちを信じて待つ保育に心を尽くし、これからも「祝福に満たされたこころをむ幼稚園」としてあり続けたいと思つています。



恵泉幼稚園園舎全景

改 宣 教 室

小泉基

(日本福音ルーテル札幌 教会牧師・宣教室長)

谷口こずえ

(広島教会信徒・るうてる食堂クレヨンボランティア)

小泉 るうてる食堂クレヨンのFacebookを拝見しました。たくさんの子どもや大人がたのしそうに集まって食事をして

おられますね。どのくらいの頻度で、どのくらいの人たちが集まつておられるのですか？

谷口 はい、わたしたちの食堂は、毎月第2、第4火曜日の4時からスタートして7時くらいまで。おいで下さる参加者は、大人と子どもを含めて、120人から180人くらいです。

小泉 主催は「神様のクレヨン」会という任意団

体になつていてのですね。この食堂がいつ頃、どのような経緯で始められたか教えてください。

谷口 教会をすべての人の居場所とし、寄り添いの場としたい、という立野泰博牧師(広島教会・松山教会)や信徒の思い

から、このるうてる食堂クレヨンは発足しました。毎回調理や配膳などのために、幼児さんから学生、シニアの方々まで含めて、35名くらいのボランティアで準備をしています。食堂がはじまる前の

時間には、認知症予防カフェ「るうてるクレヨン」が開催されています。

小泉 なかなか大変なお働きですね。谷口さんは、どのようにこの食堂にかかわりはじめられたのですか？

谷口 外に開かれた教会への奉仕として、主婦の経験を活かしてもらえるのではないかと参加しましたが、多くの方々の善意の中にわたしも加えて

いただき、みんなで作業できるところをとても心地よく感じています。食材の多くは、地域の方々から提供されていて、それらを用いてみなさんに食事を提供できていることも、わたしにとつての大きな喜びです。

小泉 最後に、谷口さんと教会との出会い、そして愛唱聖句を教えてください。

谷口 キリスト教と出会つたのは幼少の頃のことでしたが、紆余曲折ありながらも今日まで教会に連なり続けて来られたことは、主の導きの故であると感謝しています。これまでつらいことなど

あると、いつもルカによる福音書12章27節〜29節を思い起こし、この聖句に支えられてきました。「野原の花がどのように育つかを考えてみなさい。働きもせず紡ぎもしない。(中略)明日は炉に投げ込まれる草でさえ、神はこのように装つてくださる。(中略)あなたがた

も、何を食べようか、何を飲むのかと考える必要はない。また、思い悩むな。」

小泉 本日はありがとうございます。お働きに神様の祝福がありますように。



谷口こずえさん近影



石居昇夫
ルーテル学院大学学長・
日本ルーテル神学校教授

神学大学にキリスト

教社会福祉コースが設置された一九七六年、10月号の「神学校だより」に、当時の問垣洋助学長は、本学で学ぶ者は「この世界の能力主義や巨大主義に絶望し、それを捨てて、『新たな意味で、もっと積極的にこの世に入りこんでいかねばならない』と言っている」との模範は「イエスの公生涯」にあると書いています。

当たり前前のことですが、教会の宣教と奉仕はイエスご自身の宣教に始まります。イエスは「仕えられるためではなく仕えるために」来たと言われ、「わたしがあなたがたの足を洗ったのだから、あなたがたも互いに足を洗い合おうように教えられました。そして、主ご自身が貧しい人や病や障がいを持つ人たち、女性や子どもなど困難を生きる人々のところに出かけ、癒やしと慰めを持って仕え、率先して神の恵みを分かち合われたのです。

「献金」問題によせて

多田哲
日本福音ルーテル教教会永徳
教役師ルーテル研究所研究員

当時の政治的宗教的権威が神の恵みを占有し、人々を幾重にも差別し、抑圧していたのに対し、イエスは何よりも「この最も小さい者の一人」のために生きることを求められ、命を賭してその宣教に生きられた。それが「イエスの公生涯」と言っても良いのです。

ペンテコステ後の教会もまた、キリストによる救いを受けてこのイエスの宣教と奉仕を生きるように招かれ、互いに助け合い、神の恵みを共に生きた実践を生み出してきました。信徒一人一人が、イエスに倣って自分の一切を惜しまず人を愛するように導かれていきました。

もちろん、教会に問題がなかったわけではありませぬ。例えば、ギリシャ語を話す者たちからヘブライ語を話す者への苦情の声が上がったことを聖書は伝えていますが、言葉や文化の違いも重なり、より弱い立場の寡婦に対し食事の分配に不公平をもたらしただけでなく、その具体的な課題に対して、使徒たちは7名の奉仕者を選びます。これが後に、ディアコノスという教会の職務となりました。

しかし、忘れてならないことは、ディアコニアとは何か、教会が何を求め、何を果たすべきか、その本質を捉えることです。これは「ディアコニア」の姿なのだと思います。

近年、「献金」という言葉は、必ずしも良い響きで受け止められていないかもしれません。カルト団体による過度な献金要求や、信者・家族の生活を損なうような金銭的圧力が社会問題として取り上げられてきました。教会においても、信徒ではない家族から献金に対して疑念を持たれるケースが報告されています。そのため、教会が献金について語る時にも、そもそも献金とは何か、そして何であってはならないのかという前提をあらためて丁寧に確認する必要があります。

ルーテル教会において、献金は救いを得るための条件ではありません。私たちは献金によって神の恵みを買うのではなく、すでに与えられている恵みに対して感謝をもって自由に応答することができ、また、信者・家族の生活を損なうような金銭的圧力が社会問題として取り上げられてきました。教会においても、信徒ではない家族から献金に対して疑念を持たれるケースが報告されています。そのため、教会が献金について語る時にも、そもそも献金とは何か、そして何であってはならないのかという前提をあらためて丁寧に確認する必要があります。

「社会への働き」と言いながら、多くの教会では献金の大部分が牧師給に充てられている現実があります。また、信徒数の減少や高齢化、物価上昇の中で、教会財政はますます厳しくなり、一人一人の負担感が大きくなっています。献金が自由な応答であるはずなのに、いつの間にか重荷やプレッシャーとして感じられてしまうこともあるでしょう。だからこそ、ここで確認したいのは、献金が礼拝、牧会、教育、隣人への奉仕とどう関係しているのか、そして、教会の宣教を共に担うための「対価」として、教会が何を求め、何を果たすべきか、その本質を捉えることです。

ルターは『共同金庫規定への序文』で、貧しい人々を支え、教育を整え、福音の説教が継続されるために信徒の献金を用いられるべきだと考えました。そこでは、教会の財政は単なる組織維持の問題ではなく、共同体全体が隣人に仕えるための器として理解されています。これは、私たちの状況

は決して簡単ではありません。「隣人への奉仕」や「社会への働き」と言いながら、多くの教会では献金の大部分が牧師給に充てられている現実があります。また、信徒数の減少や高齢化、物価上昇の中で、教会財政はますます厳しくなり、一人一人の負担感が大きくなっています。献金が自由な応答であるはずなのに、いつの間にか重荷やプレッシャーとして感じられてしまうこともあるでしょう。だからこそ、ここで確認したいのは、献金が礼拝、牧会、教育、隣人への奉仕とどう関係しているのか、そして、教会の宣教を共に担うための「対価」として、教会が何を求め、何を果たすべきか、その本質を捉えることです。

えられている恵み、時間、力、財を、どのように隣人と世界のために用いることができるのかという問いです。献金はその一つの具体的な形であり、適切に管理していく責任が私たち皆にあります。そのために、教会の財政難を分かち合うことも必要です。しかし、それが恐れや圧力による呼びかけになつてしまふなら、献金の本来の意味を見失います。私たちは、福音が先行する神の恵みであること、を土台にしながら、その恵みに生かされていく者として、教会の宣教を共に担っていきたくたいのです。献金の話はしにくいと考えられるのではなく、あらためて献金について考えることは、これからの教会の宣教ビジョンを考えていくために大事なことです。神の恵みに応え、どのように教会が無理なく宣教を続けてこの世界に福音を証しすることができ、共に考えていきましょう。



るるるるる法人会連合第16回総会・研修会開催のご案内(続報)

本紙2026年4月号にて、るるるるる法人会連合総会・研修会の開催についてお知らせいたしました。ご詳細が決まりましたので、改めて読者の皆さまにお知らせをいたします。

記
るるるるる法人会連合第16回総会・研修会
〔日時〕
2026年9月29日(火)13時~30日(水)12時
〔会場〕
日本福音ルーテル大阪教会(総会・研修会)
〔対象〕
各法人・施設の理事長・理事・施設長・管理職・教区長
〔主題〕
「ルーテルとしての理念と使命」今私たちは何をなすべきか
〔講師〕
大柴譲治牧師(日本福音ルーテル大阪教会)
社会福祉法人るるるるるホーム理事長
「るるるるる法人会連合の理念について」(仮)
石倉智史氏(社会福祉法人るるるるるホーム常務理事)
「私たちは何をなすべきなのか」(仮)

〔参加費〕
参加費 1名千円
(部分参加の場合も全参加と同額のご負担をお願いいたします。)
〔申し込み先〕
懇親会 1名5千円
申込は左記Googleフォームからお願いいたします。
(二次元コードもご利用ください。)
https://forms.gle/VWLD DKms6D13Wq7
〔締切〕
2026年8月25日(火)必着
〔お問い合わせ〕
るるるるる法人会連合事務局(日本福音ルーテル教会事務局)
電話 03-3260-1863
FAX: 03-3260-0186
もしくは左記サイトから、件名に「るるるるる法人会連合第16回総会・研修会」としてお問い合わせください。
https://elc.or.jp/contact/
※宿泊並びに交通については、各自でお手配いただきます。予め、各所属機関との調整をお願いします。
以上



